



# 名取市民の皆さまに感謝

## ハナモモ通信50号記念座談会開催

名取の魅力若者の視点で再発見するミニコミ紙「ハナモモ通信」が昨年11月、50号となりました。創刊は2015年10月で、尚綱学院大の学生と河北新報普及センターが協力して毎月1回発行。河北新報本紙とはひと味違う地域に密着した話題を掲載してきました。学生記者は、名取市内を駆け回り、市民との「ミニミニ」ケーションを深め執筆してきました。市民との触れ合う喜びや名取の歴史、文化を学ぶ貴重な機会になっています。今号はハナモモ記者が開いた座談会をお送りします。記者たちは、取材を通して感じたことや地域とのつながり、新聞の必要性を実感したようです。

「ハナモモライター生活で  
これまでの思い出は？」

星野

名取市図書館オープンに立ち会ったときが思い出に残っています。人の賑わいがあり、本に興味津々の子供たちの笑顔を見ることができて嬉しかったです。

後藤

女子3人で取材することが多く、「ご飯を食べに行く感覚で取材を楽しんでいます」。

18世紀後半に建てられた「名取型」と呼ばれる旧中沢家の取材は場所を調べないで行ったので、Googleマップを見ながら1時間半くらい雨の降る中を歩いた。その途中に見つけた施設など名取市について知れたことに感動しセレンディビティ(※)を実感しました。

島田

名取の史跡を巡る取材は名取を知るいい機会になりました。名取の特性や人柄に触れたことも新鮮で

した。取材した内容を文章で伝えるのが難しく、取材先の事前確認を怠ったりしたので改善しなければならぬ。また、取材で聞けなかったことをあとから思い出したりすることも反省です。

後藤

取材に行く数日前にアポをとって、日程を合わせられなくて相手の方に迷惑を掛けたことが何回かありました。相手方のことを調べずに行つて、聞かなくていいことを聞いて失敗もあつたね。

菊地

当初は締め切りに追われて文章を書いていましたが、ハナモモ通信読者からのハガキ(読者の声)を見せてもらったから「読んでもらっている」という自覚ができました。

星野

21年ぶりに復活した熊野那智神社(神体を神輿で閉上まで巡る神事、お浜降り)について、井上宮司に取材した時を思い出します。井上宮司は地元の方々と関わりつつ、魂を込めて全うされていたことに感動しました。

山本

初めての取材が東北で最大といわれる前方後円墳「雷神山」で、記事が紙面に載ったときはとても嬉しかったです。また、色々言われて心が折れそうになった取材もありました。

後藤

言ってくれているうちが花だよ。強くなれるよ(笑)私は住宅街にある飲食店の取材をして言はれたことも嬉しかったです。

山本

長野県松本市出身なのでどこの取材に行っても新鮮だった。地域貢献、いい経験になっています。

「ハナモモ通信や紙媒体、

新聞の印象は？」

後藤

新聞は自分が興味のないものまで書かれていて発見がありません。これもセレンディビティ(※)。

島田

スマホで読むとなぜか読んだ気がしない。ネットは信頼



ることも新聞の力を感じます。

「今年の抱負

は？」

後藤

締め切りを守りましょう。

(笑)

菊地

名取市民が知らないところを取材してみたいね。

山本

閉上の防災などを取り上げる予定です。時間が経つと風化してしま

うので、新聞が震災報道を頑張っているように私もミニコミ紙で残せるように頑張りたい。

後藤

震災から今年で9年。私たちは小学5年生だったね。震災を知らない世代もでてきているね。

菊地

震災は記憶のエピソードで強烈なものを持っています。

山本

小学生の時、テレビで震災の津波ライブ映像を見た。人が乗っている車が津波に飲み込まれていく映像はかなり辛かった。次の日はそうい

う映像はカットされていた。

後藤

福島市では原発の爆発を地元の定点カメラが捉えた。住民は南北に避難。甲状腺検査も一年に一回あった。風評被害もあった。

星野

先輩方の卒業式の練習を体育館で練習していて、吊り下げられているライトの揺れ方がすごくトラウマになった。何が何だかわからないまま外に避難したら地割れしていた。

後藤

ライフラインはとても大事だと実感した。

島田

仙台市太白区の内陸部では津波の心配はなかったが、断層の影響もあり道路や建物の被害がたくさんあった。

菊地

仙台市青葉区の団地では赤紙や黄紙を貼られた住宅が多かった。私は姉弟の避難第一に動いた。避難訓練は大事だね。

山本

A4くらいのサイズだとフイルルに入るのいいな。

菊地

就活系の記事が必要だね。

後藤

就活試験が近いときにまとめた記事があれば最高。

菊地

1年生から記事をとめて

おけば4年分まとめて見返せる。要点がまとまったものがあればいいな。

後藤

結局、就活用の本を買ったりするのであればまとまったもの1枚あれば役に立つ。

菊地

知りたいけど報道されないニュースを掘り下げてもらえればいいね。

後藤

もう少しイラストとかグラフ、図があればいいね。特に経済面とか。文字がおおいからね。

菊地

活字嫌いな子が多いよね。その後、全部横書きのほうがいいとか、文章があつちこつちに飛ぶのも見づらいので区切ってもらいたいなどの意見がたくさん出ました。これが「新聞」だと押し付ける形でなく、若者が違和感なく読んでもらえるような「新聞」になる日が来るのだろうか。

ハナモモライターは取材を通して紙媒体の良さを感じ取ったようです。新聞にも興味を持つきっかけになりました。ハナモモライターは今年も人々と触れ合いながら知識を広げ、名取の魅力発信してまいります。どうぞご期待ください。

※セレンディビティ  
求めずして予想外のものを発見する能力のこと。